NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞記事から考えよう

2．学校名

長野県塩尻市立洗馬小学校

3．実践者名（代表者名）

中野　和幸

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　31人

6．単元（本時の学習課題）名

交通事故からみんなを守れ

7．目標(狙い)

警察署や関係機関の働きと協力のしくみを、見学したり、資料から調べたりして、地域の安全は警察署を中心とした関係機関と地域の人々の協力的な活動によって保たれていることを考えることができる。

8．評価の視点

資料（新聞記事）から警察官が私たちの暮らしや安全を守るため、事件事故防止の仕事もしていることに気づけたか。（本時の評価）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

安心安全みんなの暮らし　交通事故からみんなを守れ　9時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

本時の単元展開より
「警察官はどんな仕事をしているだろうか」
主眼
警察官の仕事について新聞記事を根拠に分かった事を発表し合う場面で、警察官が逮捕や捜査以外にも仕事をするのはなぜか、新聞記事を頼りに自分の考えを出し合う活動を通して、警察官が私たちの生活のために、事件や事故を未然に防ぐ取り組みをしていることを感じることができる。
展開過程の概要
・各自が家庭で警察官の関係している新聞記事をスクラップして持ち寄り、警察官の仕事を発表する
・発表から逮捕や捜査以外にも警察官が私たちの生活に関わっているのはなぜか考えあう。
　交通安全を呼びかける新聞記事を根拠に考えさせる。
・警察官の仕事について感じたことをまとめる

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「日々訓練しておかないと事故の時に失敗するかもしれない~」など、これまでの消防の仕事との関連から新聞記事を理解して発言できた。警察官の仕事について新聞の見出し、リード文程度の理解でも十分学習が可能であり、多くの子が関心を持って記事を集めてきた。

12．成果と課題

（成果）4年生での実践では新聞を読んだことがない児童が多かったため、新聞スクラップ作りを定期的に行い新聞を身近に感じ接する機会を増やした。このように新聞に接する機会を増やすことで、子ども達は既知の情報を基に新聞記事を選び、新聞を読もうとするなど、新聞との関わり方も変化・発展していった。新聞と接する機会を多くすることで、読めない漢字や難しい表現があっても理解しようとする姿勢も育つといえる。
（課題）難しい漢字、難しい内容が多い新聞記事をどのように児童に使用させるか。意欲的に活用するにはどのような実践の積み重ねが必要か